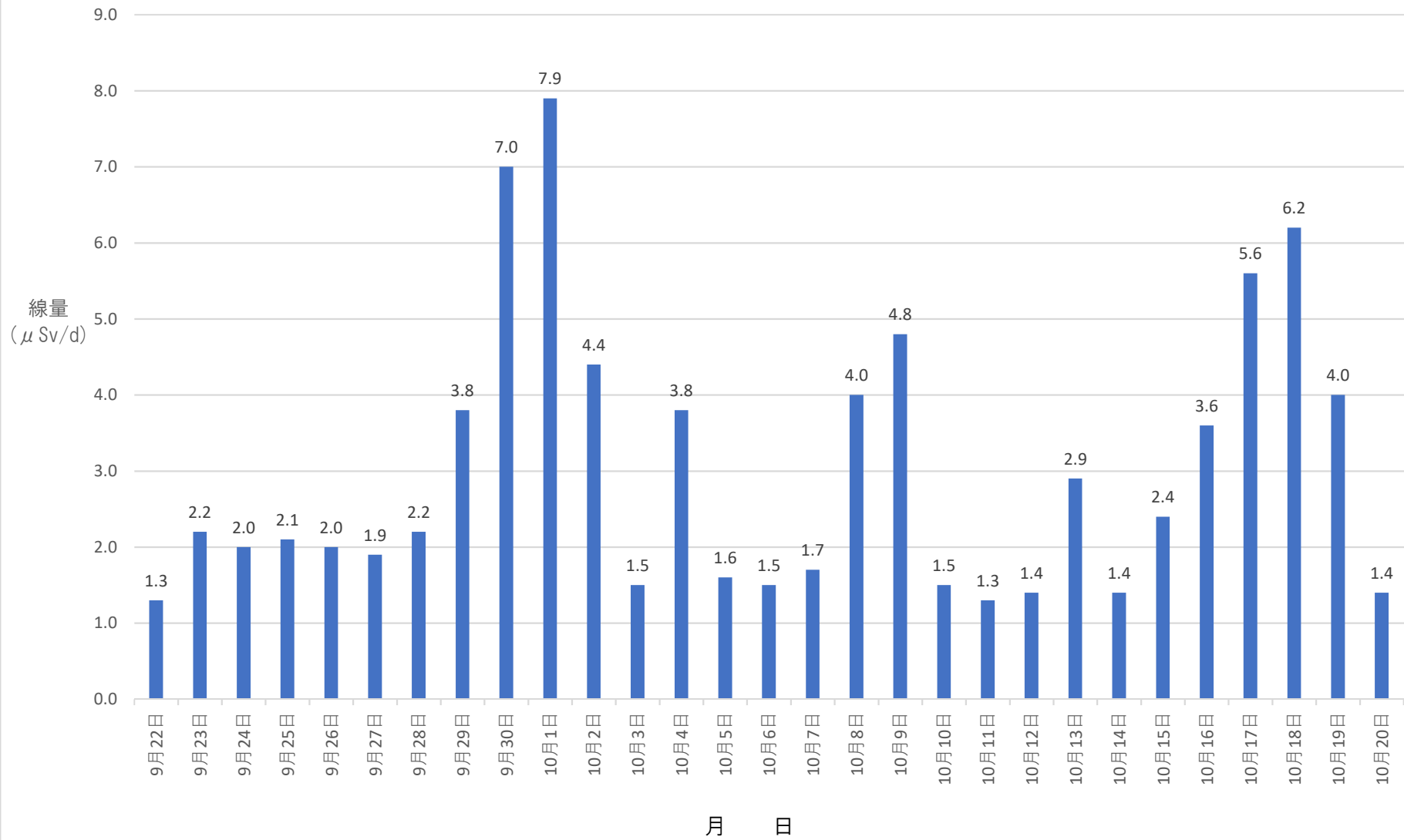


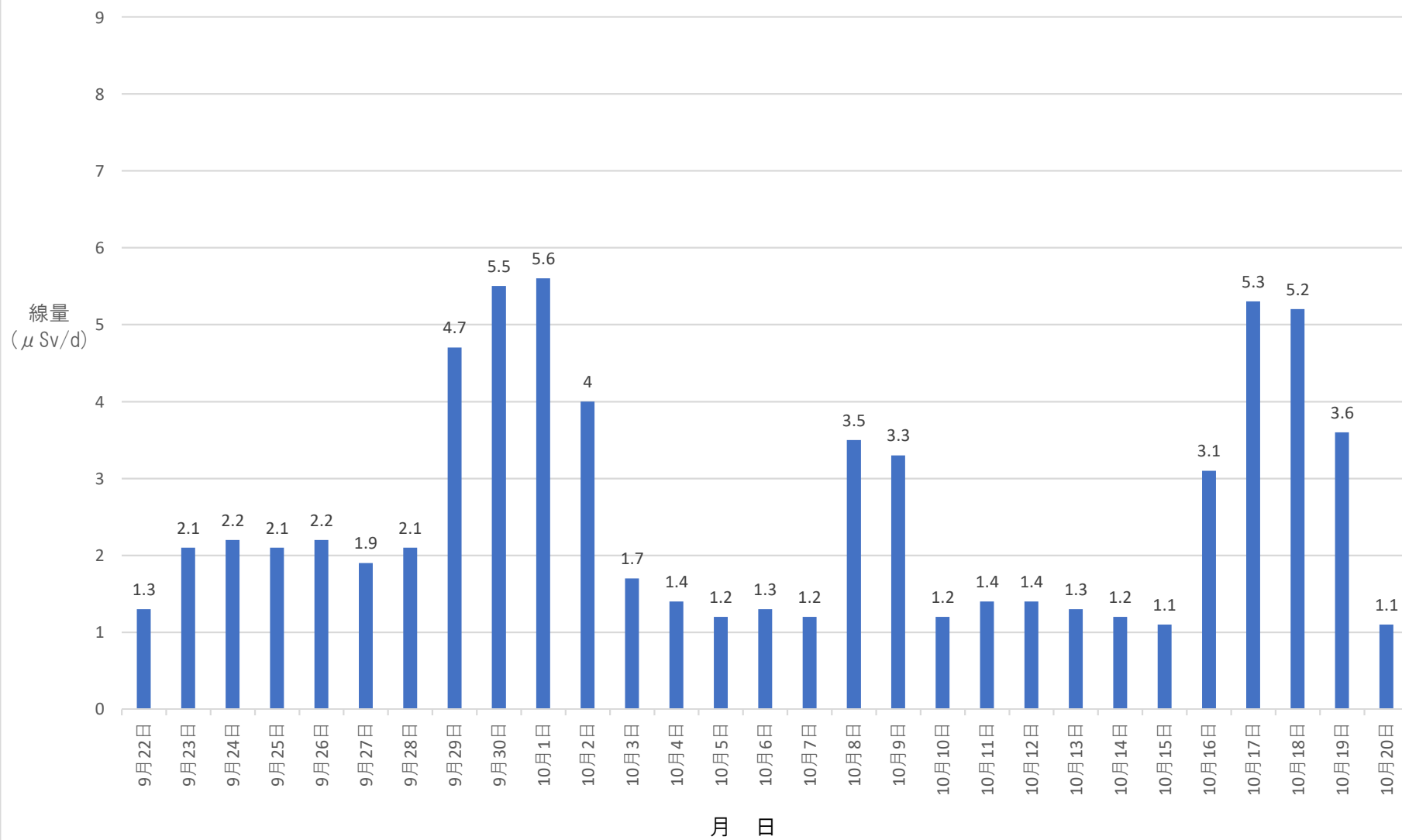
令和 4 年準備宿泊者の個人線量について

長泥地区住民 6 名

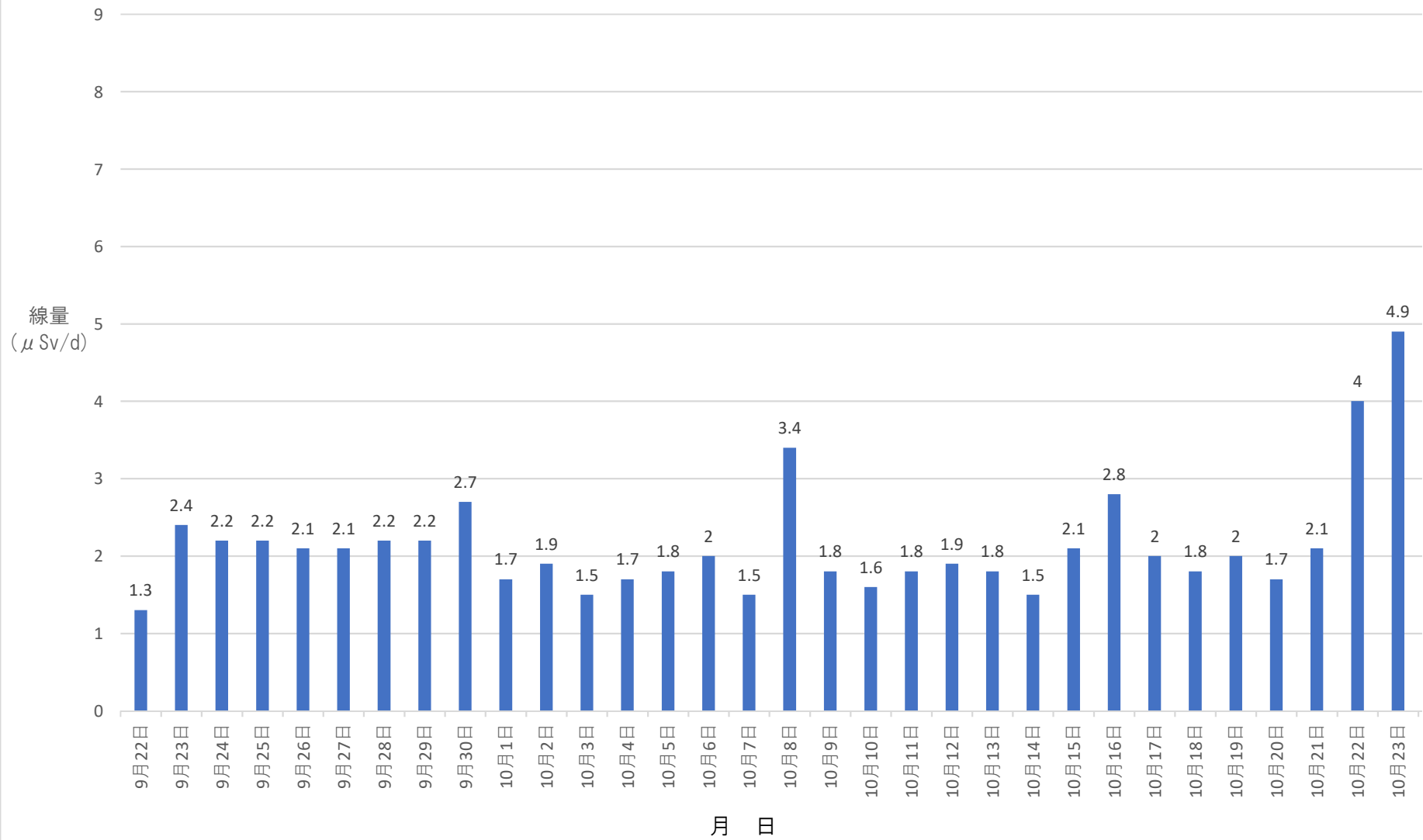
長泥地区1 日付別



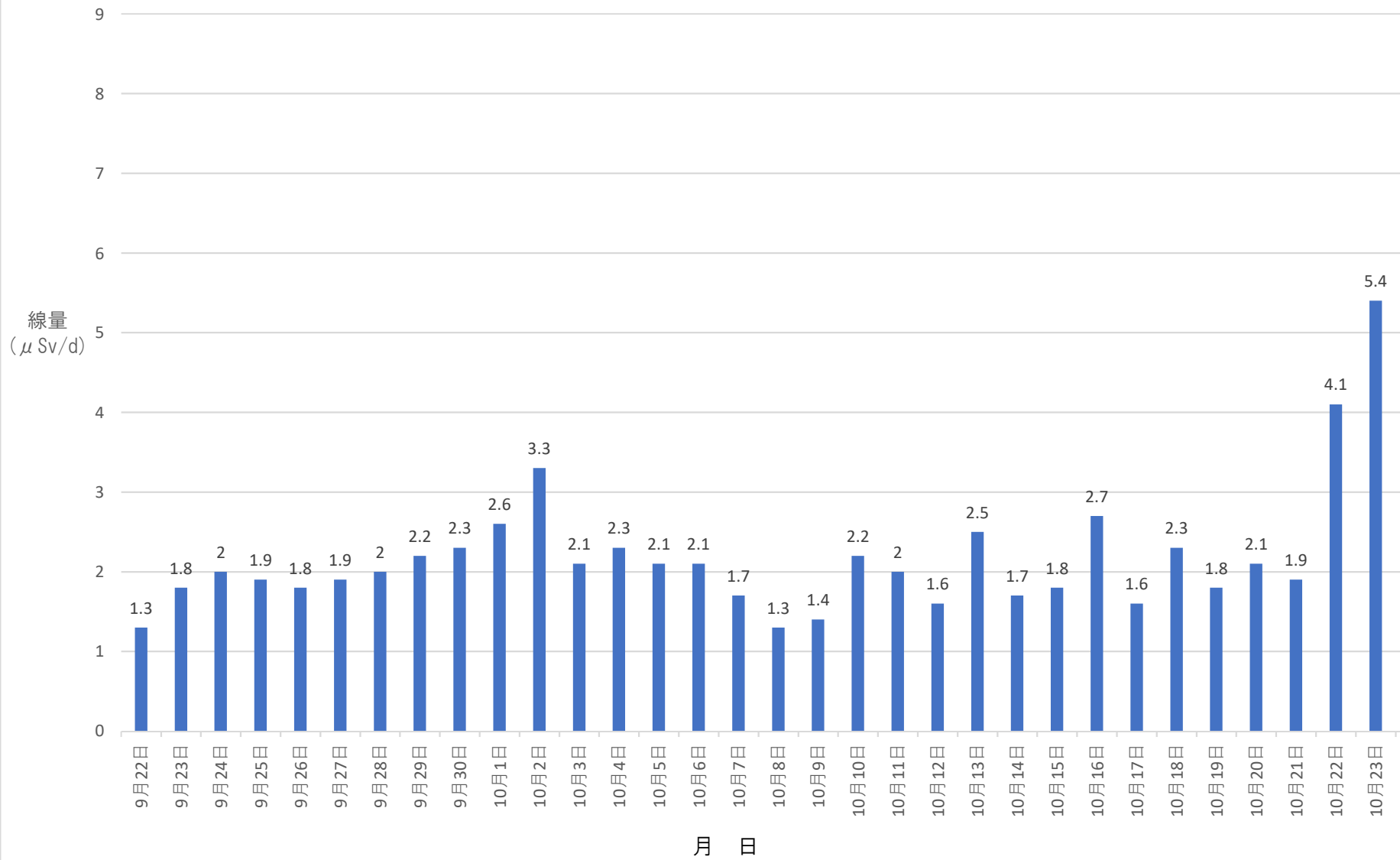
長泥地区 2 日付別



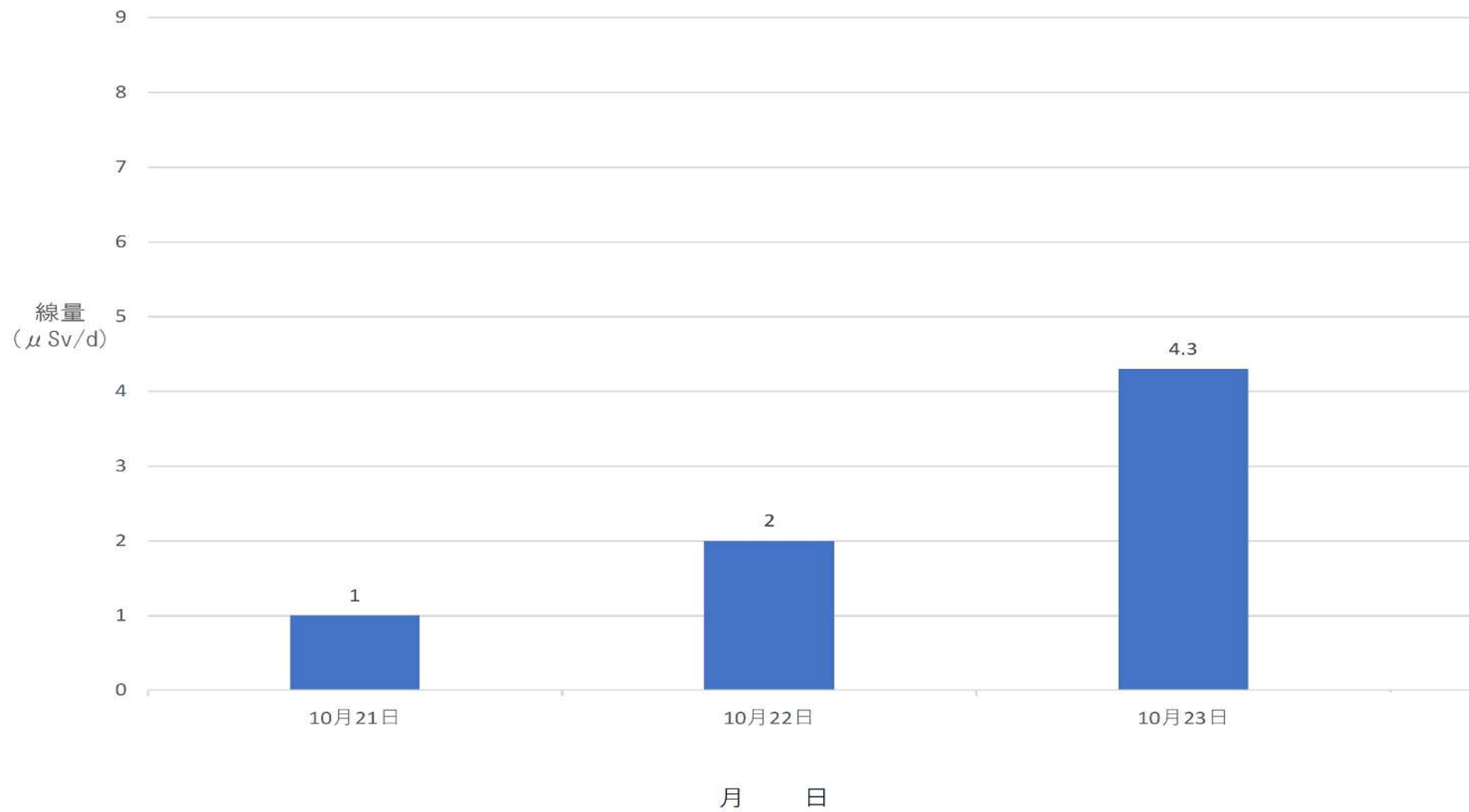
長泥地区3 日付別



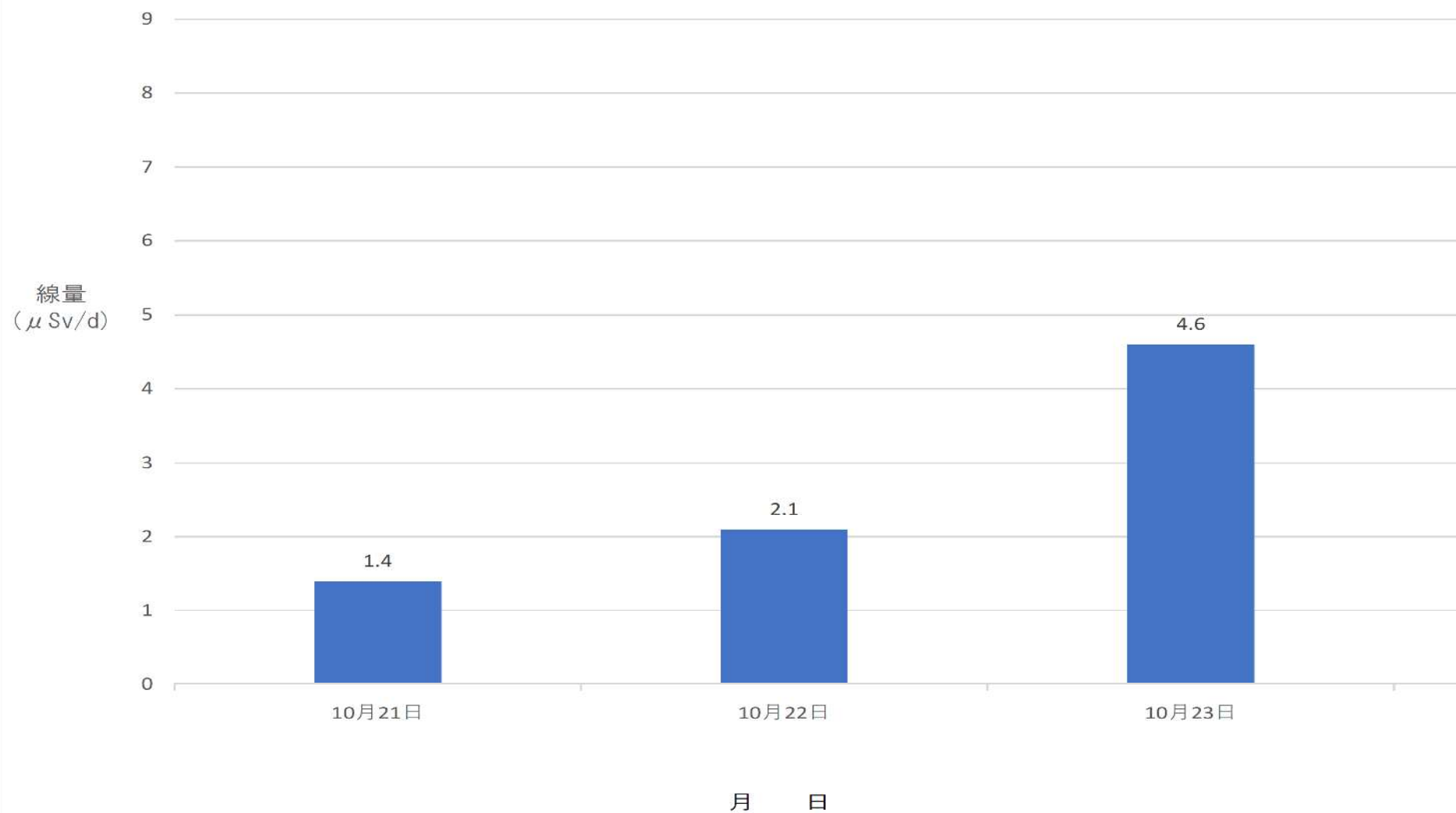
長泥地区4 日付別



長泥地区 5 日付別



長泥地区 6 日付別



主な聞き取り内容

長泥地区1（男性）

地区の共同作業や区域内の作業委託管理等でよく来ていた。
個人線量の測定をしていたがある程度の数値を想定していた。
読み取りの結果、予想通りの結果だと思う。
自分は放射線量のことは気にしていない。

長泥地区2（女性）

自宅に宿泊し家の片づけや自宅周辺の草刈りをした。
当初線量は高いと思っていたが、結果を確認し思っていたより低かった。

長泥地区3（女性）

やはり線量は高いと思う。
自宅を修理し宿泊できるように考えているが、このような環境に不安はある。
他の人が自分の身になって考えたときにこの環境に住むことに不安を感じないわけがないと思う。

長泥地区4（男性）

事故当時は地区にまだいたし、肌がピリピリ感じられた。
あれから10年以上たったが体に異常はない。かえって元気だ。
放射能のことは気にしていない。

長泥地区5（男性）

23日に一泊してきた。Dシャトルの測定結果を見て予想以下の値だった。
放射能のことは気にしていない。
避難先に帰るが解除になればこちらで生活するつもりだ。
Dシャトルの所持が役に立つとは思わない。

長泥地区6（女性）

自宅の片づけや草刈りをした。
就寝は山側の二階の部屋だった。
Dシャトルの活用により線量の様子が分かった。